

区民会議・高齢者福祉部会摘録

日 時 平成18年12月15日(金) 10時~12時

場 所 宮前区役所第4会議室

出席者 鈴木恵子部会長、永野副委員長、浅野委員、亀ヶ谷委員、松井委員、渡辺委員
原企画調整担当主幹、中山同主査、東同主査、成沢職員

開会

事務局

情報公開について

議事

課題解決策の実現方法について

各委員が提出した議論シートを元に、22日の区民会議にむけて、主に課題解決策の実現方法について議論した。

ご近所サークルの取り組み

亀ヶ谷委員 議論シートには、5W1H(Why, When, Who, Where, Whom, How)で感じているまを書いた。

永野委員 実施時期について尋ねられているのが、頻度か、スタート時期なのか、わからなかった。私は頻度と捉え、「月1回」と書いた。頻繁に実施するのは大変なので、月1回くらいで始めてはどうか。いろいろな人を巻き込みたいので、週末の開催がよいのではないか。

鈴木部会長 私が実際にやっている感覚だと、月1回でも結構大変。年4,5回やってもらえれば良いと思う。顔見知りの関係ができればいい。そのくらいの気軽さがないとやってくれる人がいない。

亀ヶ谷委員 誰が指導していくのか？

鈴木部会長 指導は地域包括支援センターが担っていくのが良いのではないかと考えている。職員が3人だけで、難しい部分もあると思うが、町内会等やってくれそうな地域で始め、指導していけばよい。「やってください」だけではなく、専門的な指導やアドバイスができる組織が必要だ。地域包括支援センター以外で、指導ができるとしたら社協、もしくは行政の高齢者支援担当だろう。

永野委員 本来は自然発生的に生まれるのが良い。既存の団体や仕組みの中でやっていくと、一般の人が入りにくくなってしまうのではないか。ただ、実施には核も必要だ。

鈴木部会長 野川がうまくいっているのは地域発信だから。地域の顔見知りややっているから、とっつきが良い。ただし同じ方法が他の地域でうまくいくかどうかは心配だ。

松井委員 野川では隣の人が更にその隣の人を紹介する形で広がっている雰囲気を感じた。「こうしなきゃ」と始めるよりは、サロンのような場があって、集まってのおしゃべりが自然に広がるような形が理想だ。モデルケースから情報発信して、宮前区全体に広がっていけば良いと思う。事例発表会のようなフォーラムをやっていくという手法もある。

鈴木部会長 ある地域では地域がやるかもしれないし、他の地域では保健所の保健師、町会が強いところは町会など、誰がやるかは決めずに、地域の実情に応じて興味や意識のある方が始めれば良いのではないか。

松井委員 地域包括支援センターに相談しながら、進められれば良い。

鈴木部会長 場所の確保が一番難しい。それができればどこだってかまわない。

松井委員 公共施設で使える所。鈴木部会長がやっているように、どこかの家庭をお借りすることも良い。

鈴木部会長 市川整形外科はけっこう集まっている。病院はけっこう良いたまり場になりうる。空き時間に先生と話をしながら、交わる。結構集まりやすい。

浅野委員 うちも患者さんとは結構話していた。たまり場があったら良いなという話はよく出る。体操や太極拳などのサークルがあれば参加したいが、自分で活動を立ち上げるほどではないという方が多

い。担い手の育成が一番重要でネック。

鈴木部会長 浅野先生中心に個人でやっていただけると、、、

浅野委員 呼ばれて行って、話しをするくらいなら良いが、中心になって人を集めるのは難しい。

永野委員 野川で始まった時、実際に集まった人数や、声をかけた人数はどうだったのか。

鈴木部会長 1グループ5,6人から始めたが、今は大体3倍の15,6人前後のグループが多くなっている。来た人に「誰か友達を誘ってきてね」というやり方で、最初の声かけはそんなたくさんにしていけない。友達から声をかけられれば、多少離れていても飛び火の様に広がる。アメーバ状の広がりを狙っており、ご近所サークルの良いところはそこだ。

集まる場所はどこでもかまわないと思うが、宮前区には公民館というのはどこかにあるのか？

永野委員 宮前区には公民館はない。

松井委員 自治会館なども良い。

鈴木部会長 亀ヶ谷委員が書かれたように堅苦しく考えずに気楽に集まれるのが理想だ。

永野委員 ただ集まろうよ、お茶を飲もうよ、で来るのか？ある程度テーマを決めたほうが良いという思いと、テーマを決めて固めすぎると、それから外れてしまう人が来にくくなるという思いと両方ある。集まった人の能力を活かして、リーダーが生まれ、お散歩グループの様にテーマや皆の目標が見えやすくなれば良いのだが、、、

渡辺委員 野川で5,6人で始まった当初は、テーマはあったのか？

鈴木部会長 最初はテーマ決まっていなかった。集まって話をしていく中で、手芸をしたり、食事をしたり、歩いたりするグループになっている。

野川のご近所サークルでは、独居高齢者など、地域の中で問題のある人や、気になる人がメンバーに入ることを条件にしている。その人をみんなが気にしていることが条件であり、問題があればすぐ集まれるようにしていく。その時々々の活動の状況に合わせて専門職が来て、話してもらうこともある。なんでもありだよということが見えたほうが、気楽に参加できる。

亀ヶ谷委員 私が考えていたのは、身寄りの無いお年寄りや、健康上の不安を抱える人を呼んで、お話をするイメージだ。ある程度対象をしぼることも必要ではないか。全く地域と関わりを持たない人に「なんとか来てよ」と声をかけるのか、「誰でもいいから集まろうよ」から始まるのか。最初の対象をどうするかで変わってくると思う。

鈴木部会長 野川での出発点は独居高齢者など気になる人をなんとかしたいということだった。

永野委員 気になる人が増えすぎると難しいのではないかな？

鈴木部会長 そんなことはない。集まってみたら、ほとんどが気になる人だったことがある。それぞれの状況を知っているということが重要であり、それで充分だ。

気になる人は一人以上いれば良いという条件なので、若い人から高齢者までバラエティに富んでおり、そこが良い。

地域ぐるみでの散歩などの実施

事務局 「ご近所サークルの取り組み」と、「地域ぐるみでの散歩などの取り組み」とはつながってくるのではないかな。散歩は、ある程度目的がはっきりしており、ご近所サークルは顔見知りの関係をつくっていくが、大きく括れば一緒になる。議論していくと境が難しい。ご近所サークルから、目的をもったサークルにつながっていくこともあるし、逆もあるだろう。

永野委員 一番最初に声かけをする際に、目標がはっきりしていると声もかけやすい。

渡辺委員 体操や散歩には、健康上の問題などで参加できない人も多い。そういう人たちをご近所サークルで拾いあげる。

鈴木部会長 両方とも地域の中で気楽に参加できる場をつくるということで共通している。

永野委員 事務局がまとめてくれた30の団体のリスト（別紙配布資料）の意味合いは何か？ご近所サークル的なものというより福祉のサークルのリストのようだが、自然発生的な団体もあるのか？

鈴木部会長 半分以上が自然発生的でボランティアが担い手の団体だ。遠くから参加している人もいない、地域密着の団体で、これも一つの大きめのご近所サークルだと思う。

浅野委員 「こういうのがあるといいですね」と繰り返し、宣伝してくことしかない。その中で「やってみよう」という人が出てくるのを待つ。活動の押し付けは無理だ。誰か一人がいるから成り立つのではなく、持ち回りのできるような形に徐々にでもなっていけば良い。既存の活動の良い例をどんどん

ん宣伝し、気がついてもらうことを考えるのが最初ではないか。

趣味の会なら、何か得意な人がいてその人が中心になるが、ご近所という、いわばなんでもない人が集まって、グループをつくりましょうよという形になるので、情報発信のお願いしかないだろう。

永野委員 研修会のようなものを、難しく考えずにできないか。例えば、今あちこちの学校でやっている安全マップづくりのワークショップを拡大し、2回以上参加した人がリーダーとなっていくような仕組みも面白いのではないか。

鈴木部会長 2月にすこやかなの団体に100人以上が集まるが、マップづくりを通して、改めて地域の状況を知っていく作業をやりたいと思っている。

松井委員 マスコミをうまく使って、会合の様子を広く知らせることも重要だ。

鈴木部会長 高齢者独居を見守るための話し合いを地域で行う試みをしているが、まだ知らない人も多い。

永野委員 町会の回覧などをもっと利用すればいいのではないか。

鈴木部会長 まちづくり協議会の福祉部会の中でも実態調査や、検討作業をやっている最中だ。その結果が出てくると、区内の高齢者の実態がもう少し把握できると思う。

浅野委員 男性には、「やっぱり声はかけられない」という方がけっこういる。自分の家を提供できる人も、周りの人と雑談などはしても、「家にいらっしゃいよ」まではなかなか行かない。自分が声をかけても相手も困るのではないかなど、まず気を使う。既に活動している女性に、どう男性を引きずりこんでもらうかを考えるといいのかなと思う。

中学校のPTAなどでも、高齢者をうまく取り上げてもらえれば、うまく広がるのではないか。

鈴木部会長 気軽に参加できる場をつくるのが重要だ。閉じこもり予防ということでは、ご近所サークルも散歩サークルも同じ。モデル的になら19年度から始められる。担い手としては老人会や民生委員も良いのではないか。

浅野委員 老人会も意外に組織のボスがいて、融通が利かないケースがある。

鈴木部会長 気にせずをお願いしてしまえばよいのではないか。いろいろなタイプの老人会があり、うまくできる所もあるだろう。

永野委員 団塊世代を有効活用し、青少年指導員と同じ様な「高齢者指導員」をつくってはどうか。

松井委員 集まらざるをえないような形をつくっていけないか。美化統一での年一回の地域の集まりや、自治会の班ごとの清掃活動などに絡めて、話したりお茶を飲んだりすることから始める。まずは顔見知りになる。年に1,2回でも良い。

鈴木部会長 町会は今の様な美化活動で、体操サークルは体操で。いろんな担い手、いろんな仕掛け方があろうと思う。それが絡み合って、顔見知りが増えていけば良い。しかし、どこかでまとめ役がいるだろう。それが社協や地域包括支援センター。

出前講座の実施

鈴木部会長 関連して出てくるのが出前講座だ。地域から生まれた課題に合わせて、講座が開けると良い。ニーズに答える形でやっていけば、参加者も増えやすく、効果もあがるのではないか。

永野委員 場所がない。市長は学校を使えというが、実際は鍵の管理など、その開放をどうやって進めていくのが難しい。

浅野委員 建物が独立している体育館などはまだ使いやすいが、空き教室は学校の時間内にとどまってしまうがちだ。料理教室などに使っている例も聞いたが、教育委員会を通さずに、校長先生と直接交渉した方が良さそうだ。ぜひ自分の地域をまじめぐりして、探してほしい。

鈴木部会長 場所はどこでもいいので、地域ごとに探していけば良い。探せばどこかあると思う。まちをウォッチングしながら一生懸命探す過程も大切だ。

松井委員 新しい拠点の開拓だけでなく、既存の拠点の稼働効率を上げていけば、結構使えるのではないか。

浅野委員 出前講座はコミュニティが既にできあがっているところに行くのか、それとも問題があるところやコミュニティの形成を目指しているところに行くのか。出前講座は、(ご近所サークルなどより)こちらからしかける部分が多いと思う。

松井委員 講座の内容もいろいろ考えられるので、両方展開できる。

鈴木部会長 たとえば最近の例では、悪徳商法対策の講座を、二つの地域包括支援センターで計画中である。

浅野委員 モデル的にまずやってみる。この団体リストにある団体を、私はあまり知らないが、どこかを通じてできれば良いのではないか。

鈴木部会長 出前講座を開催する際は、PR に力を入れることも重要だ。

渡辺委員 何かのイベントで人が集まっている時に、合わせて開催するのも手だ。出前講座単独で人を集めるのは大変だ。

亀ヶ谷委員 高齢者を対称とする講座なら、参加者にあまり遠い距離の移動をさせないことが重要であり、そのための出前だ。ご近所サークルのような単位の地域で開催できると良い。

つながりのあるテーマで、定期的に話していただけるような担い手（講師）をどうやって確保していくのかも課題だ。

鈴木部会長 「後見人ってなんだろう？」というテーマを、数人を対象に説明して「非常にわかりやすかった」と言われた例がある。口腔ケアなど、講座の内容によっては、講師と参加者が一対一に近い関係である程度丁寧にやらなければならない内容もある。

学校給食体験

鈴木部会長 高齢者の40%が低栄養と言われており、食育とも関わってくる。改善のための栄養講座をやろうという話が、介護保険でも出ている。楽しみながら、食を考える場として、学校給食体験が良いと考えた。

亀ヶ谷委員 PTA 役員をやっていた時に、給食を何回か食べる機会があった。

鈴木部会長 ただ食べるのではなく、教室で子どもたちと一緒に食べるというような形にしたい。あまり先例はないのではないかな。

土橋が使えるという話も区長さんからあった。もちろん参加する本人の費用負担があってもいい。

浅野委員 数人分の食事なら材料の量なども変えずに、ひねり出すことができるが、ある程度の決まった人数が定期的に食べるのは学校側も対応が必要だ。

亀ヶ谷委員 地域教育会議が主体となって、学校と密接に連携していくのが一番早いのではないかな。

鈴木部会長 栄養の改善という意味では、週1回程度の頻度で3ヶ月くらいは継続して進めたい。バランスのとれた食事による体調の変化を体験してもらいたい。

亀ヶ谷委員 高齢者と子どもの接点という意味でも、重要視したい。

浅野委員 総合学習の中で取り入れてもらえれば良い。

松井委員 子供たち向けのメニューが高齢者にも適しているのかどうか？専門家の意見も必要ではないかな。

浅野委員 高齢者は食事のスピードが遅い人もおり、時間がかかる。子どもと一緒に難しい面もあるだろう。何人かの児童だけ代表として呼んで、昼休みいっぱい時間を使うくらいことをしなければ、食べ切れないのではないかな。

鈴木部会長 課題はたくさんあると思うが、バランスの取れた食事を食べることで、子供たちとの交流の相乗効果を狙いたい。食事を一緒に食べ、高齢者がお礼に手遊びを教えたりということ、野川小学校ではやっている。

高齢者を見守る会議の設置

鈴木部会長 高齢者の見守り委員会のようなイメージか？

区内6箇所くらいができる予定のすこやか活動がもう少し動きだせば、そこで委員会のようなものを開催し、他の地域に波及効果があれば良いと思う。

地域のほうから包括支援センターを動かしていくくらいの力があっても良い。定期的な見守りをどうするか、独居世帯の発見やその対策など話し合う場ができれば良い。

永野委員 立ち上げ方について、もう少しヒントがないか。

鈴木部会長 今回のリストに挙げられているような団体は担い手の柱になると思う。ただ地域によって団体がたくさんある所と無いところがある。

浅野委員 地域の範囲はイメージがあるのか？中学校区なら8地区になる。

永野委員 中学校区だとちょっと広いと思う。

鈴木部会長 社協力中心、町会中心など、会議の中心はどこになってもかまわない。すこやか活動をちゃんとやれば、これができるはずだと思う。

団塊世代の有効活用

鈴木部会長 どの人が退職して地域にもどってくるのかがわからない。地域デビューのきっかけづくり。特に男性は難しい？男性をどうやって引っ張り出すかが課題だ。

渡辺委員 もともとPRしなければいけない。

事務局 デビューさせることを議論するのか。受け皿側をどうつくるかを議論するのか。

今後の進め方等

事務局 今回の議論は「地域で高齢者を見守る会議の設置」までで、積み残しが多少あっても良い。また「成年後見人制度の有効活用」は他のテーマと少し性格が異なり、区民会議での議題として適切かどうかと考えている。

鈴木部会長 ようするに現在は様々な活動や声かけがバラバラにやられている状態だ。活動サークルやご近所をまとめていく。これがうまくできれば、相互に参加者も増えるのではないか。みんなで一緒に地域を考えていこう。

事務局 事務局で整理をさせていただき、他の部会の委員さんなど、初めて話を聞く人もイメージがわくような、今日の問題をまとめた関連図をつくりたい。連携することによる相乗効果がうまく伝えたいものにしてほしい。

鈴木部会長 いろいろな活動が活発に行われる地域になっていけば良い。

討議の結果、次回の部会打合せは、1月の中下旬に開催することとした。

(以上)

(市営住宅の高齢化について)

事務局 市営住宅で高齢独居の話題が先日の区民会議で出たが、制度だけでなく、施設の規模や老朽化の問題もあり、区民会議での議論を超えている部分もあるのではないかと。数年後には建替えの話も出てくるだろう。

永野委員 解決策までできるかは別にして、議論することはおもしろいと思っていたが、

鈴木部会長 超高齢化している市営住宅をどうするか？コレクティブハウスやシェアハウスなどを推進できないか。

亀ヶ谷委員 所得制限で世帯を分けざるを得ず、高齢独居になったというケースから始まったという話だったと思う。一部改築して集まるスペースをつくっていくなどの話になるのか。